



項目をクリックすることで当該記事に進みます

2022年度SIC定時社員総会(2023. 3. 14)特集

目次

I センター情報(2022年度定時社員総会[議案書]から抜粋)

1. SIC2023年度役員(理事・監事) (【第1号議案】役員交代)より抜粋
2. SIC2022年度活動報告 (【第2号議案】2022年度事業報告)より抜粋
3. SIC2023年度の主要な活動予定 (【議題3: 報告事項】2023年度事業計画)より抜粋
4. SIC戦略提言活動 (【議題4: 報告事項】SIC戦略提言発出活動の件)より抜粋

II 活動報告

1. 会合予定

- ① 第13回SIC戦略フォーラム開催案内(4月4日(火)15:00-16:00)(会員限定・オンライン開催)
【テーマ】「カーボンニュートラル学術俯瞰図」～意義と活用法～
【講師】吉村 忍氏 (東京大学 副学長・教授)

2. 会合報告

- ① 2023. 3. 6 2023年度第1回SICフォーラム開催報告
タイトル: 大和ハウスのCCPMIによるITプロジェクトマネジメント
- ② 2023. 3. 8 2023年度第3回実行委員会開催報告

III 正会員一覧

I センター情報(SIC2022年度定時社員総会[議案書]から抜粋)

1. SIC2023年度役員(理事・監事) (【第1号議案】役員交代)より抜粋

SIC定款22条および25条に基づき、前期役員は、全員、任期を満了しており、下記役員への交代が承認された。交代役員の任期は、2023年度よりの2年間とする。

SIC2023年度役員 (理事・監事) 一覧

選任区分	氏名	所属	役職等
代表理事・センター長	浦川 伸一	損害保険ジャパン株式会社	取締役 専務執行役員 CIO
業務執行理事(会計担当)・副センター長	木村 英紀		東京大学名誉教授 大阪大学名誉教授
業務執行理事(総務担当)・実行委員長	松本 隆明	(元)独立行政法人情報処理推進機構(IPA)	(元)顧問
業務執行理事(学術担当)・学術協議会主査	青山 和浩	東京大学大学院	工学系研究科・人工物工学研究センター 教授
理事	齊藤 裕	独立行政法人情報処理推進機(IPA)	デジタルアーキテクチャ・デザインセンタ(DADC)センター長
理事	島田 太郎	株式会社東芝	取締役 代表執行役社長 CEO
理事	谷崎 勝教	株式会社三井住友銀行	専務執行役員
理事	服部 正太	株式会社構造計画研究所	取締役 代表執行役会長
理事	人見 光夫	マツダ株式会社	シニアフェローイノベーション
理事	水落 隆司	三菱電機株式会社	執行役員 ビジネスイノベーション本部 副本部長
理事	古田 英範	富士通株式会社	代表取締役 副社長 COO
理事	船生 幸宏	横河電機株式会社	常務執行役員 (CIO)
理事	久間 和生	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	理事長
監事	船橋 誠壽	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合	(元)理事

(参考)

顧問	立松 博史	株式会社野村総合研究所	専務執行役員
----	-------	-------------	--------

注) 船生 幸宏氏は新任、他の理事は再任

(所属・役職等は2023年3月14日(総会開催日)現在)

2. SIC2022年度活動報告（【第2号議案】2022年度事業報告）より抜粋

2.1 活動の概況

依然としてコロナ禍による影響が継続しており、実行委員会、分科会活動、人材育成協議会等のほとんどの活動は引き続きオンラインを中心とした形式で実施した。

2019年に設立されたSICも4年目を迎え、設立時に策定した3か年の第1期中長期計画に引き続き2022年度新たに第2期中長期計画を策定し、戦略委員会、実行委員会、理事会、社員総会等での議論を経て新たに制定された。第2期中長期計画では、モノを要素とするシステムから人を要素として含む多様なシステムへのシフトに柔軟に対応していくことを大きな柱に据えた。本計画に従って、2022年度は、システム化講座の充実によるシステム人材育成のさらなる強化に取り組んでいくとともに、少子高齢化など我が国が抱える様々な社会課題を優れたシステムの構築によって解決するための戦略提言の策定に新たに取り組んでいくこととした。戦略提言の策定に当たっては、まずは様々な産業分野において具体的にどのような社会課題が生じているか、各分野の有識者の方々からの意見を伺うべく13回のSIC戦略フォーラムを開催した。今後は、戦略委員会等での議論を経て提言につなげていく予定である。

SIC分科会活動については、2022年度、「システムヘルスケア分科会」、「システムモビリティ分科会」、「デジタルエコノミー分科会」の3つの分科会がその活動を終え、報告書の形で活動成果を取りまとめた。「流通とシステム化分科会」は引き続き精力的な活動を継続中であり、また新たに「システムオブシステムズ分科会」の新設が実行委員会ならびに理事会で承認され、活動を開始している。また、これらの分科会間での情報交流やSIC内での情報共有を目的としてSIC分科会活動報告会を開催し活発な討議を行った。

SIC人材育成協議会主催の講座の受講生間の相互交流、意識向上を目的として2022年8月6日に開催予定であったシステム人交流会は、コロナ感染症の急激な拡大により止むを得ず開催を延期することとした。

2.2 実行委員会の活動

2021年度に引き続き以下の日程で毎月1回計12回の委員会をオンラインで開催した。各回とも20人近い委員の方々に参加いただき活発な議論を行っている。

1月12日、2月9日、3月9日、4月13日、5月11日、6月8日、7月12日、
8月10日、9月14日、10月12日、11月16日、12月14日

実行委員会では、分科会の活動状況について、分科会主査や事務局担当の出席のもと適宜活動状況を報告いただき、委員間で状況を共有するとともに、今後の分科会の進め方等についても議論を行った。また、各分科会での活動内容と現在までの成果について状況報告を行いその内容をSIC内で共有するとともに、SIC外への認知度向上にもつなげていくため以下により公開シンポジウムをオンラインで開催した。本報告会では、各分科会の課題設定とその背景、課題に対する対策や提案を分科会の主査・副主査から報告するとともに、参加者を交えたディスカッションを通じて、分科会間の意思疎通や連携の可能性、さらには今後分科会として新たに取り組んでいくべきテーマについても議論を行った。

SIC分科会活動報告会(2月28日)

【報告分科会】

「システムヘルスケア分科会」 山本義春 主査(東京大学)

「システムモビリティ分科会」 西成活裕 主査(東京大学)

「デジタルエコノミー分科会」 浦川伸一 副主査(損害保険ジャパン)

「流通とシステム化分科会」 河合亜矢子 主査(学習院大学)

【参加者数】84名

戦略提言の策定に向けて、各委員からシステム化が必要なテーマの洗い出しとシステム化の具体化に関する活動について委員会の場で様々な提案をいただき、戦略フォーラムの企画開催につなげていくことができた。SICフォーラム、研修講座、分科会活動成果報告会等のイベントの企画と進め方についても継続的に議論を行った。また、中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、円滑な予算執行に向けて委員間で議論を行った。

2.3 分科会の活動

優れた社会システムのデザインを描くことを目的として、2021年度から継続して以下の3つの分科会が活発な活動を行い、2022年度活動成果報告書をまとめ、実行委員会ならびに理事会に報告することでその役割を終えることができた。今後は、経産省等の政策立案省庁への提案等へつなげていく予定である。

・「システムヘルスケア分科会」

・「システムモビリティ分科会」

・「デジタルエコノミー分科会」

2021年度新設された「流通とシステム化分科会」は引き続き活発に活動中であり、2022年度は新たに「システムオブシステムズ分科会」が立ち上がった。

2.4 人材育成協議会の活動

人材育成協議会は2022年度も以下の日程でオンラインにより4回開催した。

2月15日、4月8日、6月15日、10月21日

また、人材育成協議会主催のもと以下の3回の特別講義を実施した。

・第1回(3月7日) 下田真吾 氏(理化学研究所)

【タイトル】これからのロボティクスに求められるAIとは

【受講者数】30名

・第2回(3月28日) 藤田政之 氏(東京大学)

【タイトル】ネットワーク化された自律システム -Autonomy as a Service(AaaS)を目指して-

【受講者数】38名

・第3回(6月22日) 鳥海不二夫 氏(東京大学)

【タイトル】計算社会科学で社会の動きを観る

【受講者数】40名

・第4回(12月20日) 泰岡顕治 氏(慶應義塾大学)

【タイトル】物理シミュレーションの現在 ~分子シミュレーションとAI~

【受講者数】21名

さらに、連続して受講することにより体系的にシステム科学について学ぶための講座、「現代システム科学概論」連続講座を新設し、2022年度は以下の9回の講座をオンラインと対面のハイブリッド形式で開講した(2023年1月開催を含む)。

- ・第1回(4月23日)
「システムイノベーションとシステム科学の歴史」 木村英紀 氏(SIC)
(受講者数:69名)
- ・第2回(5月14日)
「現代システム科学の古典的な基礎:周波数とは何か？」 木村英紀 氏(SIC)
(受講者数:68名)
- ・第3回(6月11日)「最適化:システム構築の最前線のツール」
「最適化の概要」 木村英紀 氏(SIC)
「最適化の応用とソルバーの現状」 梅谷俊治 氏(大阪大学)
(受講者数:68名)
- ・第4回(7月9日)「モデリング:システム解析の知的基盤」
「モデルの基礎」 木村英紀 氏(SIC)
「演習と最新ツール」 奥宏史 氏(大阪工業大学)
(受講者数:73名)
- ・第5回(12月10日)「学習:AIの過去・現在・未来」
「学習と適応」 木村英紀 氏(SIC)
「AIの現状」 麻生英樹 氏(産業技術総合研究所)
(受講者数:64名)
- ・第6回(9月10日)「ネットワーク:システムと社会の接点」
「ネットワークの基礎」 木村英紀 氏(SIC)
「ネットワークの展開」 池田裕一 氏(京都大学)
(受講者数:64名)
- ・第7回(10月8日)「予測と推定:未知を既知に変えるシステム科学の魔術」
「予測とシステム」 木村英紀 氏(SIC)
「推測と予測の現状」 中野慎也 氏(統計数理研究所)
(受講者数:62名)
- ・第8回(11月12日)「制御:産業革命は制御から始まった」
「制御とシステム構築」 木村英紀 氏(SIC)
「制御工学の展開」 滑川徹 氏(慶応大学)
(受講者数:68名)
- ・第9回(1月14日)
「AIとロボスト制御」 木村英紀 氏(SIC)、麻生英樹 氏(産業技術総合研究所)
(受講者数:61名)

2.5 戦略委員会の活動

SICの総合的、長期的な活動の指針ならびに中長期的な将来構想を策定するために理事会直下の組織として2021年度新たに創設された「戦略委員会」は、2022年度は9月7日に第5回委員会を開催し、戦略提言策定に向けた議論を集中的に行った。

また、第2期中長期計画の実施に当たり、会員企業のもつ課題認識を確認することを目的として会員企業へのアンケートを実施し、会員企業の90%を超える企業から回答を得た。回答では、製造業からサービス業への転換

の必要性やシステム構築は進んでいるがバラバラな状況であることなどが課題として多くの企業から提示された。寄せられた貴重なアンケート回答は冊子『SIC第2期中長期計画の活動に向けての会員企業アンケート回答の集計報告』に取りまとめ、関係機関等に幅広く配布した。

2.6 SICフォーラム

2022年度は一方向のSICフォーラムから、戦略提言に向けて講師や参加者を交えた双方向の議論を中心としたSIC戦略フォーラムに重点を置いたことから以下の2回開催に留まった。

・第1回(1月31日) 遠藤薫 氏(学習院大学)

【タイトル】ポストコロナ社会におけるイノベーションと計算社会科学

【受講者数】36名

・第2回(5月18日) 水落隆司 氏(三菱電機株式会社)

【タイトル】あるべき未来・あり得る未来に向けたイノベーション ～問いの創造と意味価値～

【受講者数】43名

2.7 SIC戦略フォーラム

戦略提言に向け各分野の有識者の方々から意見を伺い議論を行うことを目的としてSIC戦略フォーラムを2022年度13回開催した(2023年2月開催を含む)。

・第1回(8月30日)【テーマ:経営】

「マクロ経済モデルの現状とNEEDS日本経済モデル」 渡部肇 氏(日本経済新聞社)

・第2回(8月30日)【テーマ:科学技術】

「危機に瀕する科学技術立国日本」 豊田長康 氏(鈴鹿医療科学大学)

・第3回(8月31日)【テーマ:防災・減災】

「防災・減災におけるシステム化について」 林春男 氏(防災科学技術研究所)

・第4回(9月12日)【テーマ:科学技術】

「Society5.0を再考する」 原山優子 氏(元CSTI常勤議員)

・第5回(9月16日)【テーマ:エネルギー】

「脱炭素社会とエネルギーシステム」 山上伸 氏(日本OR学会会長)

・第6回(9月21日)【テーマ:行政】

「デジタル田園都市構想を実装・実現する情報通信インフラ」 江崎浩 氏(東京大学)

・第7回(10月4日)【テーマ:保険】

「保険業の将来とシステム化」 藤井紳也 氏(SOMPOシステムズ)

・第8回(10月5日)【テーマ:ヘルスケア】

「人生100年時代におけるヘルスケア・システムイノベーション」 山本義春 氏(東京大学)

・第9回(10月27日)【テーマ:流通】

「小売流通システムのDXに向けた現状と課題」 河合亜矢子 氏(学習院大学)

・第10回(11月2日)【テーマ:DX】

「DXの本質と『社会生態系のシステムマネジメント』へのパラダイム変換 ～システムオブシステムズの時代の『イノベーションモデル』と『ビジネスモデル』～」 藤野直明 氏(野村総合研究所)

・第11回(11月28日)【テーマ:アーキテクチャ】

- 「最新テクノロジー活用におけるアーキテクチャの重要性」 浦川伸一 氏(損害保険ジャパン)
- ・第12回(12月5日)【テーマ:ソフトウェア産業】
「ソフトウェア受託業務の日米比較(仮題)」
ミニパネル討論: 後藤智 氏(PTCジャパン)、古屋聡一 氏(日立製作所)
- ・第13回(2月8日)【テーマ:情報セキュリティ】
「データセキュリティとデジタルアイデンティティ」 鈴木茂哉 氏(慶応大学)

2.8 広報活動

- ① 2021年度に執筆頂いた論説・寄稿を『SICニュースレター「論説」集(第2巻)』としてまとめ、2022年1月に発行し、関係機関に配布した。
- ② 2022年度も「SICニュースレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。
 - ・32号:コラム「システムと人間」 木村英紀 氏(SIC)
 - ・33号:論説「東京都立産業技術大学院大学のリカレント教育の取組」 川田誠一 氏(東京都立産業技術大学院大学)
 - ・34号:寄稿「サイバー・フィジカル連携による新価値創造」 高山光弘 氏(サイバー・フィジカル・エンジニアリング技術研究組合)
 - ・36号:論説「三菱電機のシステムイノベーションへの取り組み」 水落隆司 氏(三菱電機)
 - ・37号:寄稿「カーボンニュートラル社会への民生部門の課題」 下田吉之 氏(大阪大学)
 - ・38号:論説「持続可能な社会とデジタルトランスフォーメーション」 赤堀英明 氏(NTTコミュニケーションズ)
 - ・39号:論説「産業構造変革とシステムズ・アプローチ」 水上潔 氏(ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会)
コラム「ソサエティ5.0とデジタル社会」 木村英紀 氏(SIC)
 - ・40号:寄稿「日本郵船におけるデジタルイノベーションの取り組み」 安藤英幸 氏(日本郵船グループMTI)
コラム「A Nation at Risk:危機に立つ国家」 木村英紀 氏(SIC)
 - ・41号:論説「DXの着想の源「オペレーションズ・マネージメント(=OM)と経営工学」~企業マネージメントへの制御モデルの応用~」 藤野直明 氏(野村総合研究所)
 - ・42号:論説「サステナブルで安全・安心・快適な社会の実現に向けたデジタルイノベーション」 高浦勝寿 氏(三菱重工業)
- ③ 主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を2022年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。

2.9 会員状況(2022年12月末日現在)

- ・ 正会員 31社
2022年度新たに、株式会社日立産業制御ソリューションズ(3月)、株式会社クエスト(3月)、日本郵船株式会社(10月)の入会があった。
- ・ 学会会員 46名
2022年度新たに、理化学研究所・下田真吾氏が加入。
- ・ 個人会員 9名(年度当初8名)

以上

3. SIC2023年度の主要な活動予定 (【議題3:報告事項】2023年度事業計画)より抜粋

2023年度はSIC設立後5年目に当たる。これまで蓄積してきた分析、知見、外部発信をベースに、依然として進まない日本の産・官・学におけるシステム化を推進する突破口を切り開くために、一層の努力を集中的に行う時期が来ている。

2022年度には3つの分科会が終了し、報告書と提言が発信された。「システムヘルスケア分科会」の報告書はDADCを通して経産省に伝えられ、発信力のある提言として評価された。「システムモビリティ分科会」の報告書もDADCとの打ち合わせを経て外部発信のプロセスにある。「デジタルエコノミー分科会」の報告書も正式にHPIに掲載されている。

一方、「流通とシステム化分科会」が新しく設立され活発な活動を行っており、海外のSCMの実情調査を精力的に実施中である。2022年度の第1回理事会で決まったSoS分科会も東京大学の藤田教授を主査として正式に発足し、活動を開始しつつある。

2022年の夏に行った大規模な会員企業へのアンケートは、会員の生の声を聴くための確実な情報源となった。回収率は90%という驚異的な数字であり、会員企業の関心の高さがうかがわれた。このアンケート結果はシステム化の生の声をボトムアップで伝えた価値ある記録となっている。

昨年秋から開始した戦略提言策定のための「戦略フォーラム」はすでに13回開催し、各分野の有識者13名の貴重なご意見を伺った。この戦略フォーラムの聴講者は延500人に達しており、戦略提言のための情報が蓄積されたと考えられる。また人財育成では、一昨年の理事会で決定された通年の「現代システム科学講座」が実施され、70名を超える聴講申し込みを得て順調に進行し、2023年1月に完結した。出席率の高かった聴講生66名には修了証明書を発行した。聴講生へのアンケートの結果は大変好評で、何らかの形での継続的な実施が期待されている。システム化の人財育成の新しい試みとしてこの分野にインパクトを与えることが出来たと思われる。

2023年度はこれまでのフォーラム開催、ニュースレターの発刊、人財育成のための各種講習会の開催などの活動を続けると同時に、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化したい。そのため、前SICセンター長の齊藤裕氏がセンター長に就任されているDADCとの連携をさらに強化し、SICの活動の奥行きを広げ、その目標の社会実現を具体的に図っていく道を探りたい。

具体的には以下のような新しいイベントを計画している。

(1) 「SICシステム化戦略提言」の発出

中長期計画の一環として、今の日本で欠けている、あるいは十分でないシステムを列挙し、その構築の必要性和具体的な構築戦略を提言する。この発信は「システム化推進シンポジウム」のようなかたちでメディアにも発信し、同時に関連省庁にも届ける。可能であればこのシンポジウムに米国と中国の関係者と呼んだ国際的なものとしていきたい。この提言策定の過程で現在各省庁が運営している「官民連携プラットフォーム」にSICとして加入し、提言の実施を促す媒体と同時に、官民共同事業にシステムの視点を強化するための活動の場としていきたい。

(2) シンポジウム:ロジスティックスのシステム化を目指して

ロジスティックスは最もシステム化の真価が問われる分野であり、日本では海外に比べて著しくシステム化が遅れている分野である。また同時に、SICが強みを持つ分野である。ロジスティックスにかかわる多くの分野の専門家

を集め、そのさまざまな側面を取り上げ、システム化の妨げとなっている要因を掘り下げ、今後の推進の有効な戦略を探る。

(3) 「システム人交流会」の実施

システム化の人財育成イベントに出席した人に「システム人」の称号を与え、システム人相互の交流を促進することを目的としたイベントである。2年前から企画・予定されてきたが、コロナ禍によって実現が阻まれてきた。今年こそはそれを実現したいと思っている。

(4) 「ケーススタディ講習会」の連続化、恒常化

現在、人財育成協議会で企画されているこの講習会は、「システム化」を実際のシステム構築の場で追体験し、広範な分野にまたがるシステム化の技術とノウハウの追体験を通して学ぶための新しい人財育成の方策である。これを実施するには、実システムを教材として提供して頂くことが必要となる。この講座の実施に当たって最も大きなバリアーがこの部分である。今年は全体的な視点から積極的に材料となるシステムを提示して頂けるような仕組みを、官・産・学の協力によって作り上げることに挑戦したいと思う。

(5) 新しい職種としての「システムマネージャー」の提案とそのスキルセットの提示

一定以上の規模のシステムには、その構築・運用・進化に全責任を負う「システムマネージャー」を置くことを提案したい。現状ではシステムの運用の責任は、ベンダー、事業会社のシステム部、監督官庁、ユーザーなどに分散し、問題が生じた時の責任母体がハッキリしないだけでなく、システムにかかわるスキルの蓄積を体現する組織もあいまいである。この点を補うためにこの職種を提案する。「プロジェクトマネージャー」の責任範囲を拡大し、同時にその権限を強化したものと考えてもよい。人材育成協議会では「システムマネージャー」のスキルセットの提示とその養成のためのプログラムの検討を行う。

以上

4. SIC戦略提言活動（【議題4:報告事項】SIC戦略提言発出活動の件）より抜粋

4.1 SIC戦略提言の活動について（戦略委員会委員長 木村英紀）

SICによる戦略提言策定の活動経過を簡単に紹介します。提言の策定は昨年度から始まったSICの第2期中長期計画の一環として行うことがすでに2022年6月の戦略委員会で決定され、6月25日に戦略提言を実際に担当するWGの第一回会合が行われました。そこでは「戦略フォーラム」という形で有識者から現状の課題についてヒヤリングを行うことが決定されました。また、

「日本が直面する課題を卓越したシステムの構築によって解決するための戦略提言」

と題する企画書が昨年7月4日に作られ、SIC各組織に配布されました。実行委員会では7月12日の会合でこの文書の説明を行いました。

8月30日には第一回の戦略フォーラムが開催されました。以後今年の2月8日の第12回まで順次13名の各分野の有識者による講演会が開催され、延べ参加者はちょうど500名となっています。各フォーラムの講演内容は概要と質疑応答が事務局によって整理され、いつでも参照が可能です。講演全体もいつでも聴きなおせるように事務局で録画録音を整えております。提言策定の際に大きな手助けになるはずですが、同時に、SICとしての全体的な現状知識の増大に寄与したものと思います。

この間に、戦略提言WGによる提言の在り方についてのブレインストーミングを2回(2022年12月8日、2023年1月24日)行っています。また、現状の政府の施策とベクトルを合わせるために、官民共同事業の実態を過去10年にさかのぼって調査を行いました。調査会社に委託しました。その結果は膨大な資料となっておりますが、現在整理中です。これも提言策定の際に大きな役割を期待できます。

戦略提言発出活動の工程について、提言策定の期間をこれまで以上の深掘りとスコープの拡大を行うことによく調整をしましたので、以下にご報告したいと思います。

具体的には、次のように考えています。

- (1) サブグループによる検討…5月の連休明けに集約
- (2) WG(リーダの集合)による全体の整合性の検討…5月後半
- (3) 提言総合調整(含むDADCへの開示)…6月
- (4) 各種広報活動
- (5) シンポジウムの開催…7月後半

今後のWGの活動工程について補足しておきます。三つの分科会がすでに報告書を完成しており、その内容はなるべく包括的に提言に盛り込む予定です。また、今回期限を延長しましたので、さらに補足的なフォーラムも行いたいと考えております。例えば生産性についての知識が提言執筆には必要と思います。エネルギーについては学術会議がまとめたカーボンニュートラルの推進について計画書をベースにしたいとの要望が出ております。また、「スマートシティ」関連をはじめ各省庁が9つの「官民連携プラットフォーム」を作成しておりますが、これらにSICとして正式に入会しSICとしての発言をそこで積極的に行い、エコシステムの構成と新ビジネスの展開を訴えていきたいと考えています。これらはサブグループで大いに議論して頂きたいと存じます。

シンポジウムですが、できれば国際シンポにしたいと考えています。たとえばMITのIDSSの活動はめざましく、そのあたりの情報を得るとともに意見交換をしたいと考えています。また中国の物流政策も国際情勢を反映して大き

く進んでいるようで、中国からの情報も得られました、また、「システムマネージャー」という職種の創設と、その職種が必要としているスキルセットの構成も、提言の一部として考えていきたいと思っています。これについては、人財育成協議会からワーキングペーパーを提出する予定です。

4.2 SIC戦略提言の構成割当て

サブグループ 政府重点項目	エネルギー	金融	防災	ロジスティックス	ヘルスケア	科学技術
スマートシティ	○	○	○	○	○	○
地方創成	○	○	○		○	
行政DX		○	○	○	○	
防災	○		○	○	○	○
国民健康データ					○	○
フードチェーン			○	○	○	
MaaS	○		○	○		

以上

Ⅱ 活動報告

1. 会合予定

① 第13回SIC戦略フォーラム(2023年4月4日(火) 15:00-16:00)開催案内

参加資格者: SIC会員限定(オンライン開催)

参加申込: 参加申込は、[SIC イベント参加登録ページ](https://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html)

<https://sysic-org.sakura.ne.jp/SICregistration.html>

内の第13回「SIC戦略フォーラム」よりお願いします

【テーマ】「カーボンニュートラル学術俯瞰図」～意義と活用法～

【講師】 吉村 忍氏 東京大学 副学長・教授 東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻
日本学術会議 第三部 部長 (元SIC学術協議会主査)

【概要】

日本学術会議では2022年にカーボンニュートラルに関する学術俯瞰図を作成し、公開した。これは、全学術分野、全ステークホルダが連携・協力してカーボンニュートラル社会実現に向けて取り組むための海図の役割を果たすものである。

本講演では、本俯瞰図の作成の経緯、意義、活用法を解説するとともに、カーボンニュートラル社会実現に向けてのいくつかの具体的な取り組みについても紹介する。

(参考)

https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/carbon_n/index.html

【講師プロフィール】

吉村 忍(よしむら しのぶ)氏

東京大学の副学長、産学協創担当として活躍。30年来、ハイパフォーマンス知的シミュレーション(High Performance and Intelligent Simulation)の研究開発と、その工学、社会・環境・交通、防災・減災問題への応用に関する研究開発を精力的に進めている。その幅広い研究活動の基盤には、社会や環境は人間・人工物・自然が相互に深く関連する複雑システム(Complex System)であり、現代的諸課題の根本的解決には、その複雑システムの理解とモデリング、それに基づく高精度の定量予測とデザインが必須であるという根本認識がある。現在、東大での業務以外に日本学術会議第三部の部長として活躍されている。



以上

2. 会合報告

① 2023. 3. 6 15:00-16:00 2023年度第1回SICフォーラム開催報告

【受講者数】 83名(申込者数105名)(会員限定) (MS Teamsによるオンライン開催)

【タイトル】 **大和ハウスのCCPMによるITプロジェクトマネジメント**

【講師】 松山竜蔵氏 大和ハウス工業株式会社 執行役員 情報システム部門担当

司会:木村英紀SIC副センター長

【概要】

松山氏は、元富士通シニアフェロー・元SIC実行委員宮田一雄氏(著)『進む! 助け合える! WA(和)のプロジェクトマネジメント 一プロマネとメンバーのためのCCPM理論;ダイヤモンド社(2017年4月)』に成功事例として紹介されている大和ハウスのSAP ERP導入時の、CCPM導入のプロジェクト責任者である。

CCPM(Critical Chain Project Management)とは、イスラエルの物理学者であるエリヤフ・ゴールドラット博士(1948~2011)が提唱した制約理論(TOC)の考え方にに基づき、全体最適化の観点から開発されたプロジェクトマネジメント手法である。クリティカルチェーンとは、クリティカルパスにリソースの制約を加味したプロジェクトの最長経路のことである。一言で説明すると①リソースの衝突を取り除く、②課題解決のビジネスプロセスを構築、③万全な事前準備(Full Kit)を行い、プロジェクトのフロー(流れ)を止めない、ことである。特に Full Kit が確認できるまではプロジェクトをスタートさせないことであることが重要であると強調された。

同社の会計業務は、それまでは支社単位で個別に行っていたが、事業規模の拡大に伴い全社一元管理をする目的で2012年4月から会計・人事領域でSAP ERPを導入することになった。当初の会計システム導入プロジェクトは「グランドデザインフェーズ」が終わらないまま「ビジネス設計フェーズ」を開始しさらに「ビジネス設計フェーズ」が終わらないまま「実現化フェーズ」を開始していた。そのためプロジェクト予算が大幅に超過する見積もりがベンダーから出た。そこでプロジェクトをいったんストップする暗礁に乗り上げた。その後CCPM導入のための2週間の研修を行い、CCPMによるマネジメントを実施した結果、「実現化フェーズ」その後の「テスト本格稼働フェーズ」は、共に25%以上の納期短縮が実現できた。人事システムに関しては別のベンダーが実施したが、CCPM導入により、同様に「実現化フェーズ」・「システムテストフェーズ」共に25%以上の納期短縮が実現できた。

この成功体験により、同社では「CCPMでONE TEAMになる」をキャッチに同社のベンダーを含めITプロジェクトマネジメントにはCCPMを義務づけて納期遵守のみならず納期の「短縮」を実現している。最後に、今後の課題として、①他部署が主導するDXプロジェクトへのCCPMの適用、②見積もりの精度アップによる短納期化、③アジャイル開発との融合を挙げられた。

(ルポ:中野一夫(SIC実行委員))

【講師プロフィール】

松山 竜蔵(まつやま りゅうぞう)氏

1988年に大和ハウス工業入社以来、本社・事業所の経理を歴任。2010年からSAP ERPによる会計システム導入プロジェクトのプロジェクトリーダー。同プロジェクトでCCPMを同社に導入。以降は会計内部統制の部門長を務めながら会計システムのグループロールアウトを主導。2018年10月本社情報システム部部長。2020年4月に執行役員とグループIT子会社の社長を兼務(現職)。



講演中のスクリーンショット

② 2023. 3. 8 15:00-17:00 2023年度第3回実行委員会開催報告

開催形式：Microsoft Teams によるオンライン開催

参加人数：実行委員会議メンバー11名(副センター長、事務局1名含む)、監事2名、計13名

議題

司会 松本隆明実行委員長

1. 報告事項

1.1 2023年度第1回SICフォーラム(3/6) 開催報告

久保忠伴事務局次長

1.2 第13回SIC戦略フォーラム(4/4) 開催案内

同上

テーマ:「カーボンニュートラル学術俯瞰図」～意義と活用法～

講師:吉村忍東京大学副学長・教授 日本学術会議 第三部 部長

1.3 分科会活動報告(SoS分科会)

宮前義彦実行委員

予定通りに進捗との報告

2. 協議事項

2.1 SIC2022年度定時社員総会(3/14) 議案書の確認

出口光一郎事務局長

2.2 「スマートシティ官民連携プラットフォーム」への参画について

久保忠伴事務局次長

同事業の三号会員に入会予定を合意

2.3 戦略提言 WG サブグループおよびリーダーの承認等

木村英紀副センター長

・ロジスティックス、・エネルギー、・レジリエンス(防災改め)

・ヘルスケア、・金融、・科学技術 以上のサブグループのリーダーを確定

次回、次々回の実行委員会開催予定日時

2023年度第4回実行委員会 4月12日(水) 15:00-17:00

2023年度第5回実行委員会 5月10日(水) 15:00-17:00

以上

Ⅲ 正会員一覧

SCSK株式会社	NTTコムウェア株式会社
株式会社NTTドコモ	株式会社クエスト
株式会社構造計画研究所	株式会社JSOL
株式会社テクノバ	株式会社東芝
株式会社ニューチャーネットワークス	株式会社野村総合研究所
株式会社日立国際電気	株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社日立システムズ	株式会社日立製作所 研究開発グループ
	社会システムイノベーションセンター
株式会社三井住友銀行	損害保険ジャパン株式会社
東京ガス株式会社	日鉄ソリューションズ株式会社
日本郵船グループ株式会社MTI	ファナック株式会社
富士通株式会社	マツダ株式会社
三菱重工業株式会社	三菱電機株式会社
デジタルイノベーション本部	
横河電機株式会社	ロジスティード株式会社（旧日立物流株式会社）

2023年4月1日現在(五十音順)

©SIC 2023.4

発行者: 一般社団法人 システムイノベーションセンター(SIC)
代表理事・センター長 浦川伸一

編集者: SIC 実行委員 中野一夫 (株式会社構造計画研究所)
事務局 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-12-7 ストック新宿 B-19 号
URL: <https://sysic.org> E-mail: office@sysic.org Tel.Fax: 03-5381-3567